

## 最優秀賞

(熊本地方法務局長賞)

今みんなに、一番伝えたい言葉は「ありがとう」

植木町立五霊中学校 一年 清田 希望

『私は先天性四肢障がいとして生まれました。私は生まれたときから左手が小さく指は3本です。『どうして?』』と母に聞くと、

「生まれてから分かったとよ。生まれたときは一目見て本当に驚いたよ。」  
と言われました。妹は双子でいっしょに生まれてきました。妹は何も障がいなく生まれてきたけれど、一度もうらやましく思ったことはありません。家族も優しいし、そしてきょうだいがやさしいからです。

家では何でもします。時には料理も作ります。母は私たちがきちんと自立できるように小さい頃から育ててくれました。きょうだいはとても仲がいいです。

学校では友たちと毎日楽しいです。友達はそのなこと気にせず、いっしょに遊んだり、話したりしてくれました。私はうれしかったです。

中学校に入る前は自分の障がいのせいで、友達ができるかどうか心配していたけど、他の学校からきた人達もみんな仲よくしてくれました。なんでも気軽に話をしてくれて、いい人たちに出会えてよかったなと思いました。

私の冬の制服のそでの長さはそれぞれに違います。制服を作るとき、母と話し合って決めました。使いやすいようにです。でもはじめは周りの目が気になりました。なんかじろじろ見られているようにしかたがなかったです。でもすぐに気にならなくなりました。

私は鉄棒や飛び箱などできなかったことがたくさんありました。「失敗は 成功のもと」と考えて今まであきらめずに最後までがんばってきました。これから3年間いろいろできなかつたりして迷惑ばかりかけると思うけどよろしくお願いします。』

私は学校の人権集会で自分のことを語りました。

みんなの前で発表する前に、クラスで語りました。クラスで発表するときは、自分のことを語ることが正直つらくて、泣いてなかなか語ることができませんでした。泣きながら語りました。みんな静かに聞いてくれました。発表したあと、私の語りを聞いてみんなが感想を書いてくれました。それを家に帰って、ゆっくり読むと、とても温かい言葉ばかりで話してよかったなと思いました。また休み時間も、みんなは前よりやさしく接してくれました。

一週間後の人権集会で、私は全校生徒の前で自分のことを語りました。教室では違って、大き

な声で言えました。それはクラスのみんなの支えがあったから語れたんだと思います。それからクラスの中の2人の友達が私の紹介をしてくれ、勇気もてました。こんなふうに支えあえる友達がいるっていいなと思いました。

次に、私の水俣病問題を考えようという人権学習の授業が続き、自分が乗りこえなければならぬこと、自分の中にある差別性で見つめ語り合う学習がありました。私の妹と母親の声を録音されたものを聞きました。はじめて家族の思いを実際に聞きました。母はその授業を教室の外で聞いていました。

「産まれてきたとき、何で何でと考えました。一晩悩みました。でも生きていれば必ず医療が進みよい方向に進むと考えました。この子が自立できるように育てました。小学校では、一つ一つ自分の力で乗りこえていました。この子はすごいなあと思いました。」

私は母はそんなに思ってくれてたのかと驚きました。



た。妹の語りも聞きました。

「私も自分に甘えず生きていきたいです。私は家族が大好きです。姉のことは、ずっといつまでも守っていこうと思っています。」

と、優しい言葉でうれしかったです。

私は一番幸せ者だなあと感じました。今度は、うれしくて涙がでそうになりました。

私は、この学習から、たくさんのことを学びました。まずは、今まで自分を支えてきてくれた友達の大切さです。友達がいなければ、今の私はいないと思います。友達がいてくれたから、くやしきことも悲しいことも全部、のりこえてこれたんだと思います。先生方も自分のことをしっかり考えて下さっています。次に家族のあたたかさです。私は今みんなに、一番伝えたい言葉は、

「ありがとう」

です。今まで支えてきてくれてありがとう。これからも何にでもチャレンジしていきます。